

○ 環境と健康を守り安全で快適な空間を作ります

グリーン購入法指定 木毛セメント板

ノンフロン イソシアヌレート

## 高性能断熱・耐火30分屋根

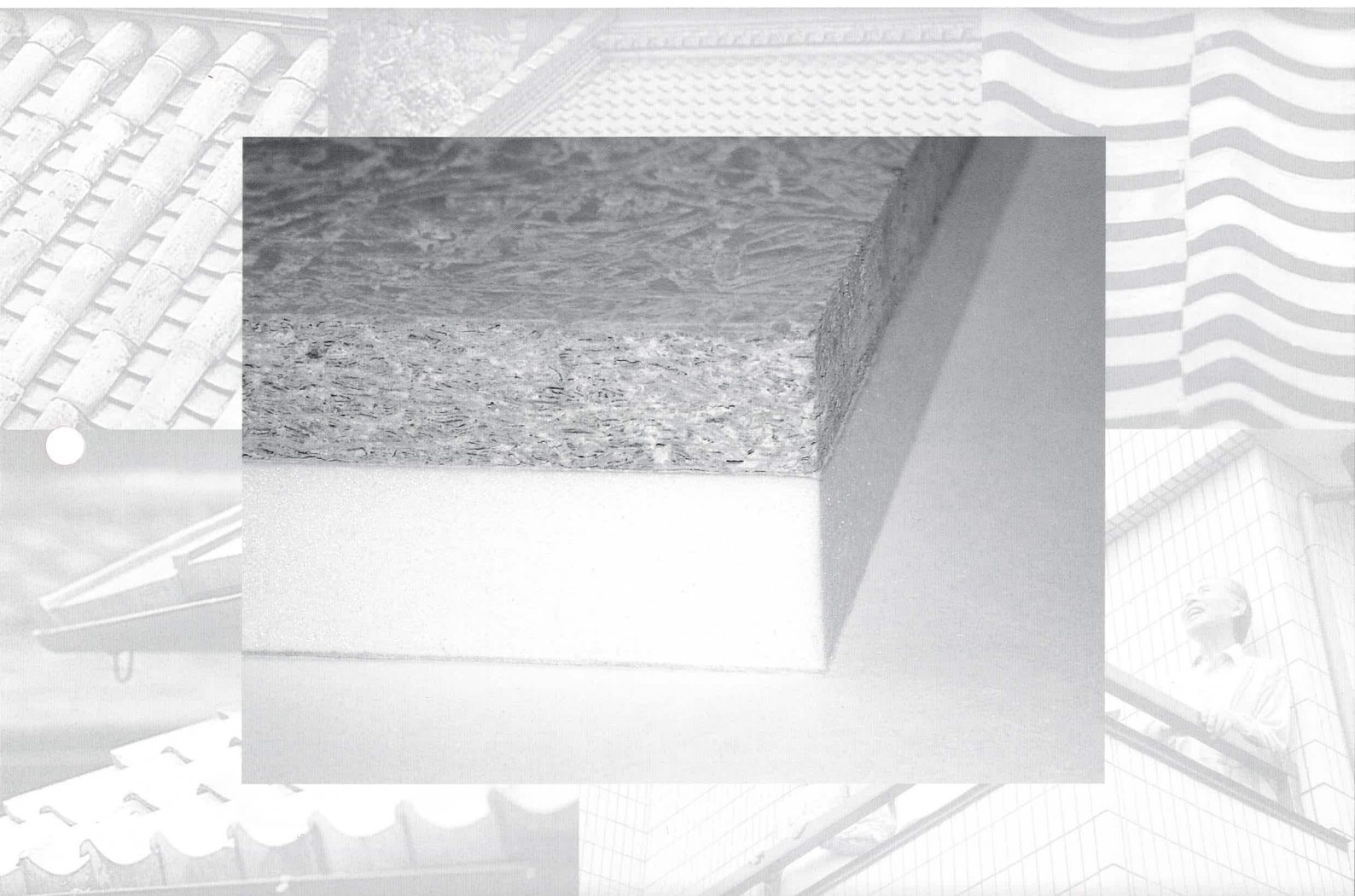
FPO30RF-0146

カラーアルミ・イソシアヌレート保温板・硬質木毛セメント板表張／軽量鉄骨下地屋根

FPO30RF-0153

粘土がわら・硬質木毛セメント板・イソシアヌレート保温板表張／軽量鉄骨下地屋根

# ヤネイチーBタイプ



# 特長

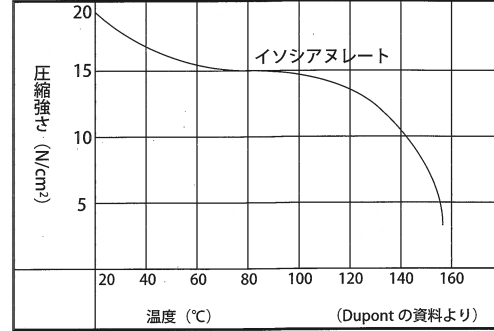
- \*アスベストなど健康を害する有害物質は一切使用しておりません。
- \*ホルムアルデヒド等低放散型建材です。
- \*建物の高断熱化を推進します。
- \*葺き材は瓦をはじめ、金属板、スレート、不燃シングルの中から選択できます。
- \*硬質木毛セメント板（かさ比重 0.86 以上）は 20mm～50mm、イソシアヌレートは 10mm～50mm 自由に組み合わせて表裏どちらでもご使用頂けます。（詳細は施工方法参照）
- \*母屋間隔は構造計算等により安全な範囲でご使用頂けます。

## 製品規格 大きさ 910×1820mm

### ◆イソシアヌレートフォーム

厚み	熱伝導率 λ	熱抵抗 R	熱貫流率 K
mm	W/m·K	m <sup>2</sup> ·K/W	W/m <sup>2</sup> ·K
10	0.021	0.4762	1.652
15		0.7200	1.186
20		0.9524	0.925
25		1.1905	0.758
30		1.4286	0.642
40		1.9048	0.492
50		2.3810	0.398

■イソシアヌレートの温度と圧縮強さの関係



### ◆硬質木毛セメント板(準不燃材料QM-9701)

硬質木毛セメント板(かさ比重0.86以上1.0未満)				硬質木毛セメント板(かさ比重1.0以上)		
厚み	熱伝導率 λ	熱抵抗 R	熱貫流率 K	熱伝導率 λ	熱抵抗 R	熱貫流率 K
mm	W/m·K	m <sup>2</sup> ·K/W	W/m <sup>2</sup> ·K	W/m·K	m <sup>2</sup> ·K/W	W/m <sup>2</sup> ·K
20	0.09	0.222	2.847	0.13	0.154	3.540
25		0.278	2.458		0.192	3.110
30		0.333	2.163		0.231	2.780
40		0.444	1.744		0.308	2.290
50		0.556	1.461		0.385	1.950

### ◆硬質木毛セメント板+イソシアヌレートフォーム複合板

硬質木毛セメント板(0.86以上1.0未満)+イソシアヌレートフォーム複合板					硬質木毛セメント板(1.0以上)+イソシアヌレートフォーム複合板				
厚み(mm)		断熱性能		強度	厚み(mm)		断熱性能		強度
硬質木毛セメント板	イソシアヌレートフォーム	熱抵抗 R	熱貫流率 K	曲げ破壊荷重	硬質木毛セメント板	イソシアヌレートフォーム	熱抵抗 R	熱貫流率 K	曲げ破壊荷重
熱伝導率	熱伝導率	m <sup>2</sup> ·K/W	W/m <sup>2</sup> ·K	N	熱伝導率	熱伝導率	m <sup>2</sup> ·K/W	W/m <sup>2</sup> ·K	N
0.09W/m·k	0.021W/m·k				0.13W/m·k	0.021W/m·k			
20	10	0.698	1.209	1550	20	10	0.630	1.317	1800
	15	0.937	0.939	1550		15	0.868	1.003	1800
	20	1.175	0.767	1700		20	1.106	0.810	2000
	25	1.413	0.649	1700		25	1.344	0.679	2000
	30	1.651	0.562	1700		30	1.582	0.584	2000
	40	2.127	0.443	1700		40	2.059	0.457	2000
	50	2.603	0.366	1700		50	2.535	0.375	2000
25	10	0.754	1.133	1950	25	10	0.669	1.250	2300
	15	0.992	0.892	1950		15	0.907	0.966	2300
	20	1.230	0.736	2100		20	1.145	0.785	2500
	25	1.468	0.626	2100		25	1.383	0.661	2500
	30	1.706	0.545	2100		30	1.621	0.571	2500
	40	2.183	0.433	2100		40	2.097	0.449	2500
	50	2.659	0.359	2100		50	2.573	0.370	2500

### ◆硬質木毛セメント板20、25+イソシアヌレートフォーム20mm

硬質木毛セメント板かさ比重	厚み	周波数(HZ)	125	250	500	1000	2000	4000
0.86以上1.0未満	20mm	透過損失	17.26	23.34	27.59	32.95	38.40	43.92
	25mm		18.83	23.96	29.25	34.64	40.12	45.65
1.0以上	20mm		18.67	23.80	29.08	34.47	39.94	45.48
	25mm		20.26	25.45	30.77	36.18	41.68	47.23

## 屋根の施工方法

- \*母屋には1時間耐火被覆を行う。但し、平成12年建設省告示第1399号第4号三、二に該当する場合は行わなくてもよい。
- \*たるき間隔は607mm以下になるように取り付ける。たるきには1時間耐火被覆を行う。但し、平成12年建設省告示第1399号第4号三、二に該当する場合は行わなくてもよい。
- \*野地板は割付図に従って配置し、縦方向の目地にはジョイナーを使用してもよい。
- \*野地板の表裏はいずれでもよい。但し認定番号を確認して下さい。
- \*取り付けはドリリングタッピンねじを用いて端部から100mm以内の位置で、間隔は500mm以内とする。
- \*防水材は重ね代100mm以上となるように野地板に敷き込む。

## 屋根の種類及び葺材

### カラーアルミ・イソシアヌレート保温板・硬質木毛セメント板表張／軽量鉄骨下地屋根

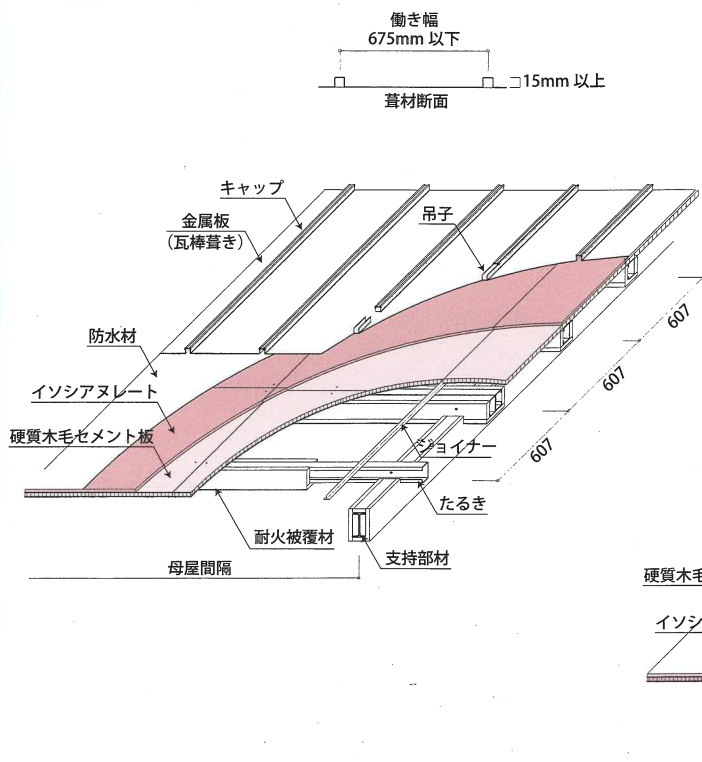
屋根の種類	葺材の種類
①横葺き（働き幅：150～606mm）	①カラーアルミ：厚さ0.4mm以上（NM-8597又はNM-8598）
②瓦棒葺き（働き幅：225～675mm）	②塩化ビニル樹脂金属積層板：厚さ0.35mm以上（NM-8674～NM-8696の一）
③立平葺き（働き幅：200～853mm）	③塗装／亜鉛めっき鋼板：厚さ0.3mm以上（NM-8697）
④瓦葺き（働き幅：200～500mm）	④アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板：厚さ0.3mm以上（NM-8027）
⑤折板葺き（働き幅：200～800mm）	⑤ポリエステル樹脂系塗装／アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板：厚さ0.3mm以上（NM-8028）
	⑥伸銅品：厚さ0.3mm以上（NM-8586～NM-8595の一）
	⑦ステンレス鋼板：厚さ0.25mm以上（JIS G 4304又はJIS G 4305）
	⑧塗装ステンレス鋼板：厚さ0.27mm以上（NM-8316～NM-8326の一）
	⑨樹脂充てん／両面塗装ステンレス鋼板：厚さ0.52mm以上（NM-8327～NM-8332の一）
	⑩チタン展伸材：厚さ0.3mm以上（NM-8596又はJIS H 4600）
	⑪樹脂充てん／両面鋼板：厚さ0.56mm以上（NM-8698）
	⑫塗装溶融55%アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板（JIS G 3322）：厚さ0.3mm以上
	⑬塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板（JIS G 3318）：厚さ0.3mm以上
	⑭溶融55%アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板（JIS G 3321）：厚さ0.3mm以上
	⑮電気亜鉛めっき鋼板（JIS G 3313）：厚さ0.3mm以上

### 粘土がわら・硬質木毛セメント板・イソシアヌレート保温板表張／軽量鉄骨下地屋根

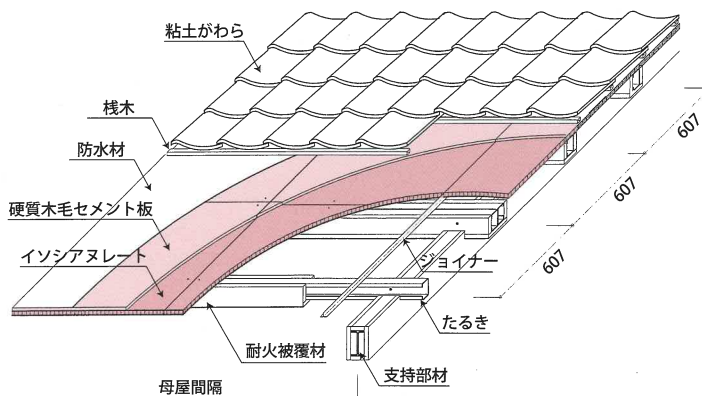
屋根の種類	葺材の種類
(1) 粘土がわら葺き （働き幅：305mm以下）	(1) 粘土がわら葺き：（JIS A 5208）
(2) 金属板葺き：①～⑤の一	(2) 金属板葺き
①横葺き（働き幅：150～606mm）	①溶融亜鉛めっき鋼板：厚さ0.3mm以上 平成12年建設省告示 第1400号又はJIS G 3302
②瓦棒葺き（働き幅：225～675mm）	②アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板：厚さ0.3mm以上（NM-8027）
③立平葺き（働き幅：200～853mm）	③伸銅品：厚さ0.3mm以上（NM-8586～NM-8595の一）
④瓦葺き（働き幅：200～500mm）	④ステンレス鋼板：厚さ0.25mm以上（JIS G 4304又はJIS G 4305）
⑤折板葺き（働き幅：200～800mm）	⑤無機質断熱材裏張／金属板：厚さ2mm以上（NM-8673）
(3) 化粧スレート葺き （働き幅：1050mm以下）	⑥アルミニウム板：厚さ0.4mm以上 平成12年建設省告示 第1400号
(4) 波形スレート葺き （働き幅：1050mm以下）	⑦塗装溶融55%アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板（JIS G 3322）：厚さ0.3mm以上
(5) 厚形スレート葺き （働き幅：357mm以下）	⑧塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板（JIS G 3318）：厚さ0.3mm以上
(6) 不燃シングル葺き （働き幅：998mm以下）	⑨溶融55%アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板（JIS G 3321）：厚さ0.3mm以上
	⑩溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板（JIS G 3317）：厚さ0.3mm以上
	⑪電気亜鉛めっき鋼板（JIS G 3313）：厚さ0.3mm以上
	(3) 化粧スレート葺き（JIS A 5423）
	(4) 波形スレート葺き（JIS A 5430）
	(5) 厚形スレート葺き（JIS A 5402）
	(6) 不燃シングル葺き（NM-9011、NM-9045、NM-8359、NM-9567、DR-0004、DR-0014、DR-0018、DR-0078、DR-0091、DR-0096、DR-0109）

（詳細につきましてはメーカーにお問い合わせ下さい。）

## 瓦棒葺き屋根



## 粘土がわら葺き屋根



## 注意事項

1. 保管上の注意  
 屋内の平滑なところに保管してください。やむを得ず屋外に保管する場合はシートなどにより水漏れを防止してください。積み上げ高さは3m以内にしてください。火気には特に注意して下さい。
2. 移動上の注意  
 移動の際はワイヤーの食い込みにより傷ついたり角を欠いたりしますので損傷の無いよう十分に注意してください。
3. 施工上の注意
  - 1) たる木の上に重ね置きする場合は導板を使用し、重量には十分に注意してください。又、はね出して置かないよう十分に注意してください。
  - 2) 工事中の屋根の上を歩行する場合は必ず導板の上を歩いて下さい。
  - 3) 切断時には粉塵が発生しますので、粉塵吸引装置を設置し、作業服を着用の上、防塵マスク、防護メガネ等を使用して下さい。
  - 4) 粉塵が目に入った場合は、こすらずにきれいな流水で洗浄してください。また、粉塵を吸入した場合はうがいをして、洗い出してください。
  - 5) 下地材の施工後は出来るだけ速やかに屋根葺き材を施工してください。
  - 6) 施工は施工方法に従って実施してください。ご不明な点がございましたら下記のメーカー又は代理店にお問い合わせ下さい。

## 代理店

日本工業規格認定工場 第392009号  
 国土交通大臣認定 QM-9059 QM-9701 QM-9702  
 国土交通大臣認定 屋根耐火30分 FP030RF-0044 FP030RF-9114 FP030RF-9086 FP030RF-9174  
 FP030RF-9258 FP030RF-9259 FP030RF-9132  
 国土交通大臣認定 壁耐火30分 FP030NE-9071 FP030NE-9222  
 壁耐火1時間FP060NE-9223 FP060NE-0050



## 興亜不燃板工業株式会社

ホームページ <http://www.koa-funen.co.jp>

本社工場 〒276-0047 千葉県八千代市大和田新田1149-7 ☎ 047(450)0001(代)  
 長柄工場 〒297-0206 千葉県長生郡長柄町山根1985-1 ☎ 0475(35)5000(代)  
 FAX 0475(35)4702